





都心で広く暮らす間取りとは？

リビング 大空間主義

取材・文／森尾直幸、保倉勝巳 撮影／菊田香太郎、遠藤貴也、中島伸純

「広々としたリビングが欲しい」とは、家を買う誰もが共通して抱く思い。けれども、地価の高い都心居住と広い空間はなかなか両立しにくいのが現状。しかも、部屋数を確保するために、リビングを小さくしかとれない間取りがまだまだ多いのも事実です。そこで、今回は都心の限られたスペースを広く使うための間取りについて、考えてみました。



広いリビングで
手に入れた、
ふたり一緒の
たいせつな時間

渋谷区上原
齊藤さん
家族構成：夫婦

ふたりのライフスタイルが、導き出した、広々とした空間。玄関を上がるとすぐに、大きくられた窓から優しい光が差し込広々としたリビングが現れる。そこにはゆったりとしたソファがしつえられ、窓の外の緑の多い景色とともに、上質なくつろぎのムードを演出す。

「共働きなので、ふたりで家にいる時間を大切にしたい」という藤さん夫妻。結婚当初はうまい目に共通の時間を持てなかったといふたりは、住み替えの時に「各自がどう生活するか」ということをじっくりと考えたのだという。そして出した答えが、広いリビングのある部屋に住むということだった。「部屋数が多いと、同じ時間にあいても一緒にいる感覚が薄れる。って」。確かに、間仕切りがなければ相手の気配を感じることができ、それぞれが離れて別のことをし



右/30畳のLDKには特製のソファが置かれている。壁に飾られているのはご主人が撮った写真 上/料理をしながらおもてなしができるようにというも、オープンキッチンを選んだ理由のひとつ。マリオ・ベリニのCABチェアに合わせて、カウンターの高さを決めたと。出窓のような1畳ほどのスペースは、マットを置いてゴロゴロと過ごす、縁側のような憩いの場所 下/唯一独立しているベッドルーム



でも一緒に時間を共有している気分になれる。「それに友達を呼んで一緒に過ごすことも多いので、LDK一体型の住まいは私たちのライフスタイルにぴったりだったんです」

住みたい部屋のイメージができたところで、美紀さんがリフォームの仕事を手がけていたこともあり、中古マンションを購入し手を入れることに。そして出会ったのがこの物件だった。窓の数を多くとった横に長いスタイルが気に入って、LDKに改装。最初はスタジオタイプの間取りにとも考えたが、ベッドルームとの仕切りを引き戸にすることで、開放感で広々としたひとつの空間にできるようにしたという。

大きなスペースを極力生かすように、家具は厳選し、最小限のものを配置。大好きだというリゾートの贅沢な空間つかいを取り入れたゆとり住まいには、スローな時間が流れていた。